様式第７号（第 12 条関係）

事　業　実　績　書

１　事 業 名

備中神楽で楽しむ広がる役に立つ・開かれた地域と交流型観光資源開発事業

２　実施期間　　2019 年 6 月 1 日～2020 年 2 月 15 日

３　事業内容

① 事業の目的・概要

・事業を通じて備中神楽を知ってもらう。他県から来訪してもらう。これまで備中神楽を見てなかった客層に来てもらう。 →観光ツアーやルートに組み込まれる。

・事業に関わった人や事業に参加した人が、備中神楽を通して地域を誇りに思い、地元を再度見直し、備中神楽に関わりたいと思ってもらう。備中神楽を好きになってもらう 。→地域の担い手による継承存続。

② 事業の流れ等

・備中神楽の社中(支部)の横連携

想定される現状課題に関して、備中神楽の現状を実際の神楽太夫さんにお会いして聞き、まとめ、それを来期以降の活動に活かす。

・備中神楽の有効的な発信方法勉強会

備中神楽の魅力を発信するために、今回の事業以外でも持続的に備中神楽の動画を作成し、YouTube チャンネル上で公開してもらえるようにするために、岡山県立大学デザイン学部長嘉数先生の指導の下、携帯で簡単にアプリを使って動画撮影・編集・YouTube 等に公開する方法を学ぶ講座を実施する。

備中神楽に関わる方や、関心のある地域住民（子供神楽のお母さま方等）に講座を受講して撮影者となってもらい、YouTube チャンネル(NPO 法人かんなぎが独自に取得するチャンネル)上に公開する。

・民俗音楽と舞の融合「クロスカルチャーKAGURA フェスティバル」開催

既存の備中神楽の舞と太鼓に民俗音楽家が音を付けたすことにより、神楽の雰囲気を高める。新たなファン層獲得や興味を持ってもらう機会とする。

③ 成果･効果

・備中神楽の社中（支部）の横連携

備中神楽の社中へのヒアリングの機会を得られたことは大きい。社中すべてを回れたわけではないが、活動的な備中神楽太夫からお話を伺え、現状を調査できたことは来期以降の活動の指針となった。

神楽師は岡山県神社庁に免許認定を受け、通常各社中に属し神楽師として活動している。

備中神楽の演目を一通り舞うには最低 6～7 名の神楽太夫が必要となる。2019 年 4 月時点の情報によると３９社中内、登録神楽師が 5 名以下の神楽社中は１９社となっており、約２分の１が一社中だけでは通し神楽（演目多く夜通し舞う神楽）を舞えなくなっており、祭りやイベントがある時は他の社中から手伝いを呼び神楽が成り立っていることになる。ヒアリングした中、現社中で活動的である社中の数は約２０社中と聞いていたのでその数とおおよそ一致する。背景にはお祭り自体が減ったこと、それにより備中神楽を舞う機会が減ってきたこと、それにより継承者の減少がおこり、消滅する伝統芸能の流れとして危惧する段階であると感じる。以前 1970～80 年代はお祭りもさかんで、今日のように土日に神楽が集中するような形ではなく村単位で平日でも神楽が行われていたようで、神楽だけで生計がなりたつ神楽太夫もいたようである。お祭りが各地で行われていた時は神楽師人口も潤沢だったので、各社中が連携をする必要性がそもそもなかったようである。しかし、現在はどうだろうか？神楽師減少により社中間で協力しあわないといけないお祭りもあるため必然的に共に神楽を舞っている機会もあるらしいが、その交流を通して神楽を発展させていこうというような継続的な連携をしていくことは難しいようである。一部の先人の神楽師がよりパフォーマンス性の高い神楽や音楽をつけたすなどの発展的な神楽を試みたことが過去にもあるようだが、その時の一時的な連携でそれが持続しているような形跡はあまりみられないことが残念である。

備中神楽関係者が神楽を誇りにおもい、今までの伝承方法を続けていけるかは、神楽社中同士の横連携、かつ垣根をさげて一般市民の参加を促す改革、闊達に意見交換できる風通しのよい環境が大切であるように感じられるので、当法人としては、引き続き多くの神楽師の方々と会い多くの意見に触れ、まずは企画したイベントなどで共演してもらう機会を増やす、それと付随して気楽に話あえる機会を設けられたらと考えている。

・備中神楽の有効的な発信方法勉強会

参加者の半数が備中神楽というより動画編集・YouTube アップに興味がある方の参加だった。神楽関係者の参加を望んでいたが、まだその段階にないことがわかった。

備中神楽全容が見えるようなダイジェスト版のようなわかりやすいサイトがない為、既存の神楽社中と動画配信や備中神楽全体をわかりやすく視聴者目線で発信することが必要と感じた。

今後は神楽関係者とそれ以外の方々で多様な目線を取り入れた発信方法を開発していく。なお、今回の事業で下記リンクにて各受講者の動画をアップしている。

https://www.youtube.com/channel/UCL9UGWmEwURBNvrgginOMQg

・民俗音楽と舞の融合「クロスカルチャーKAGURA フェスティバル」開催

神楽を初めて観る方、何回も観たことはあるが今回のイベント内容に惹かれて来てくださった方など、目的だった既存のファン層からの掘り起こし、新たな神楽ファン層を獲得するという成果が得られたように思う。アンケートを回収率は 104 名来場者中 79 名提出と非常によかった。（※別途まとめ資料参照）

当日の様子も動画で配信し、新たな神楽ファン層を掘り起こす。

④ 今後の課題･展開等

・備中神楽の社中（支部）の横連携

神楽社中の横連携は一筋縄ではいかないことがわかったが、それは共通する目的を持っていないことや、活動する場所が少ないことが一つの要因ではないかと考えられる。今後はお祭り以外にも知ってもらう機会を増やしていくことが必要である。また、神楽太夫側からも積極的な発案、そしてそれを実行できるような風通しの良いマインド醸成が必要である。

当法人は積極的に地元企業や行政に提案をし、地域資源として有効に活用していく場面の創出を図っていきたい。具体的には地元企業には、①CSV(Creating Shared Value,社会と共有の価値を創造していくこと)の一環として、地域の文化を見直す機会創出、それによる企業と社会双方向で発展する関わり方の共同企画、②定期公演や次世代の発表場所の提供、③①②における資金面でのサポートをお願いしたい。また、行政には、①備中神楽を地域資源として有効に活用していくために、県内・県外への発信の協力、②今後公演をする際の後援名義等の協力をお願いしたい。

備中神楽は結婚式などハレの日に喜ばれる出し物だと思うので、新たな活躍場所を創出していくなど、新たな機会を探っていきたい。

・備中神楽の有効的な発信

神楽関係者が神楽の情報を発信したり活用したりすることは少なく、ＨＰがあったとしても更新されることが少ない。ＳＮＳで発信するとしても、視聴者側が欲しい情報が発信されていないことも考えられるので、客観的な第三者や非関係者の意見を取り入れて、情報を発信することが必要である。

・民俗音楽と舞の融合「クロスカルチャーKAGURA フェスティバル」開催

終了後の声から賛否両論はあったが、このイベントをきっかけに備中神楽を知ってもらうきっかけとなったように感じる。このようなイベントを企画するには神楽関係者の積極的な参加が望ましいが、今回は、新たな神楽を共に模索し、神楽鑑賞の機会を増やしていくという目的をメンバー全員とは共有できなかった。

今後、このようなイベントをする際には目的をさらに明確化し、メンバーと共有して創作していきたい。

【クロスカルチャーKAGURA フェスタ】

来場者人数を 100 名に設定していたのですが、結果前売券で設定人数近く販売でき、より多くの人に神楽に触れる機会を設けられたのは良かった。当日は 104 名の方が来てくださり、次ページ以降のアンケート結果通り神楽を鑑賞いただいた。アンケートの回収率を高めるため、備中神楽演目内の大国さまが撒く福の種を帰りの際にアンケート回答いただいた方に渡すという工夫で、回収率は 104 名中79名とよかった。岡山県内でも備中神楽を知らない、見たことがないという人がいる声は反応として感じていたので、今回備中神楽をはじめてみたという方が 18 名いたことはありがたかったし、また今まで2回以上から数えきれないほど見た人が 54 名いた中、加えて備中神楽以外にも石見神楽を筆頭に他の神楽も鑑賞したことがある方々など神楽にもともと関心が高いであろう来場者が今回のクロスカルチャーKAGURA フェスタイベントに興味を持ってくださり足を運んでくれたことは今回の企画に興味をもってくださった人が多かったのではないか、と分析する。備中神楽と民族音楽の音に違和感を感じる、また神楽が決めるところで音がのこってしまい一体感がなかったなどのご意見もいただいたが、総じて今回のコラボ企画に好感をもってくれたようにアンケートから感じる。今回のコラボは既存の神楽に民族音楽家が音を創作していくということを目標にしていたが、神楽が非常に完成されている芸能だったため動き・音のリズムを把握するためには、音をつけたす民族音楽家たちの神楽への理解度、タイミングの把握が必要であったのが反省点として残る。既存の神楽の雰囲気を高めるような演出をし、新たなファン層や既存の神楽ファンの満足度を高めることに貢献するには、より完成度の高い音合わせと相互の理解が不可欠であると感じた。今後の企画に関しては、今回の反省を活かし充分な期間をもうけて企画・音合わせをしていけるようなイベントにつなげたい。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

イベントでの告知やメディアへのアプローチなどを指南してもらい、スムーズに運べた。県との協働事業だったため、課題を共有しそれに対する事業として認識してくれているという事実が今後の当法人が活動するにあたって信頼に繋がったように感じる。イベントなど初めてのことが多く、その準備に追われてしまったため、県の担当者とより密に連絡をとりあい、あったかもしれないネットワークや助言を活用できなかったことを残念に思う。

動画講座	動画撮影のため訪れた荒神神楽
神楽師と民族音楽家との打合せ	
クロスカルチャーKAGURA フェスタの様子	

“備中神楽 × 民族音楽” 舞と音の融合フェスタ

クロスカルチャー KAGURA フェスタ

2020年2月15日(土曜日) 開場 17:30 開演 18:00-20:00 令和元年度岡山県備中県民局提案型協働事業

場所 倉敷市芸文館アイシアター 〒710-0046 岡山

入場料 前売り 大人¥2,000 中学生以下¥500 / 当日 大人¥2,500 中学生以下¥1,

〈チケット取扱所〉
倉敷市芸文館 ℡ 086-434-0400 9:00~17:00（水曜休館）
アルスくらしきチケットセンター ℡ 086-434-0010
平日 9:00-17:00（土・日・祝定休日）

主催：NPO法人かんなぎ 代表 今野 友紀（こんの ゆき）
共催：岡山県備中県民局 後援：吉備学会 倉敷市 倉敷市教育

検索 NPO法人かんなぎ https:

［クロスカルチャー KAGURAフェスタ］

備中神楽は今まで同じ形で受け継がれてきた訳ではなく、時代とともに変化しながら継承されて来ました。地球の繁栄を願う先祖の逞しくも温かな精神性を重んじながら、今を生きる私達が備中神楽をどの様に表現していくのか、その新たな取り組みが今回のクロスカルチャー神楽フェスタです。備中神楽と民族音楽の融合した舞台をお楽しみ下さい。

温故知新がキーワードです。

NPO法人 かんなぎ
代表 今野 友紀（こんの ゆき）

［備中神楽］

備中地方では古来より荒神の鎮魂を願い荒神神楽が舞われてきました。文化文政年間に岡山県高梁市出身の神官で国学者の西林国橋が、古事記、日本書記、古今和歌集をもとに能、狂言、歌舞伎を取り入れた神代神楽が江戸時代後期に合わさり現代の備中神楽となりました。地域の人々に郷土芸能として今日まで愛されています。

一九七九年二月二十四日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

［演目］

一、榊舞（さかきまい）
その場に集う人々、その他一切を清める為に舞う。巫舞（かんなぎまい）と呼ばれる古来からの神事舞。

二、導き舞（みちびきまい）
猿田彦命の由来出来事を説明する舞。

三、猿田彦命の舞（さるたひこのみことのまい）
天孫降臨の際に瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）を先導し邪魔外道を払う舞。

休憩 十五分

四、大国主命（おおくにぬしのみこと）
国造りの神で、出雲大社の御祭神の舞。舞の後に一粒万倍に皆さんに福が授かるよう福の種をまきます。

五、大蛇退治（おろちたいじ）
素戔嗚尊（すさのおのみこと）神が、契り（結婚）を結んだ奇稲田姫（くしなだひめ）を助けるために、八岐大蛇（やまたのおろち）を退治する。

岡山在住のトライバルミュージシャン達

岩本象一 ドラム ガムラン

2005~8年
インドネシア国立芸術大学ジャカルタ校にて伝統音楽を学ぶ。帰国後ジャワガムラン教室を開校。ワークショップや演奏活動を行う。

コイケ龍一 カリンバ パーカッション

二十歳タンザニア国立芸術大学で伝統音楽と舞踏を学ぶ。帰国後、演奏活動とカリンバ制作を行う。

美作市に「c a f e & k a l i m b a ホシメグリ」オープン。

ハブヒロシ 遊鼓（自作太鼓）

インドネシア国立芸術大学にてガムラン楽器演奏研修後、セネガルの人間国宝ドウドウ・ジャエ・ローズ・ファミリーのもとでサバールドラムの研修後、世界各の民俗音楽を学ぶ。アルバムCD「長蔵音頭」発売。